別記様式第２号（その１の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基　本　計　画								
事　項		記　入　欄						備　考
計画の区分		学部の学科の設置						
フリガナ 設置者		ｶﾞｯｺｳﾎｳｼﾞﾝ ｸﾝｴｲｶﾞｸｴﾝ 学校法人　薫英学園						
フリガナ 大学の名称		ｵｵｻｶﾆﾝｹﾞﾝｶｶﾞｸﾀﾞｲｶﾞｸ 大阪人間科学大学　(Osaka University of Human Sciences)						
大学本部の位置		大阪府摂津市正雀１丁目４番１号						
大学の目的		本学は、建学の精神「敬・信・愛」を継承し、「自立と共生の心を培う人間教育」に基づき、生活の質的向上の方途を探る人間科学の展開を図り、課題解決能力と対人援助の専門知識・技術を持つ人間味豊かな人材を育成し、社会の発展に貢献することを目的とする。						
新設学部等の目的		社会創造学科では、複雑・多様かつ変化が早い知識基盤社会（Knowledge-based society）を社会学的視点から構造的に捉え、その構造に内包する社会課題を可視化することで課題を理解・発見し、「分野を超えた専門知・技能の組み合わせ」「多職種の連携」という点を重視しながら解決に向けて新しい未来型社会を提案・表現する人材を養成することを目的とする。						
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	人間科学部 [Faculty of Human Sciences]	年	人	年次 人	人		年　月 第　年次	
	社会創造学科 [Department of Social Creation]	4	30	3年次 0	120	学士（社会創造学） （Bachelor of Social Creation）	令和6年4月 第1年次 令和8年4月 第3年次	大阪府摂津市正雀１丁目４番１号
	計		30	3年次 0	120			
同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）		人間科学部 社会福祉学科〔定員減〕　(△20)　(令和6年4月) 医療福祉学科〔定員減〕　(△10)　(令和6年4月) 子ども教育学科〔定員減〕　(△15)　(令和6年4月) 心理学部 心理学科〔定員増〕　(15)　(令和6年4月)						
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数	
		講義	演習	実験・実習	計			
	人間科学部 社会創造学科	75 科目	45 科目	3 科目	123 科目		124 単位	

教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等 教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等	
	新設分	人間科学部　社会創造学科	4 人 (4)	1 人 (1)	2 人 (2)	3 人 (2)	10 人 (9)	0 人 (0)	65 人 (59)	
		計	4 (4)	1 (1)	2 (2)	3 (2)	10 (9)	0 (0)	— (—)	
	既設分	人間科学部　社会福祉学科	5 (5)	2 (2)	3 (3)	2 (2)	12 (12)	0 (0)	105 (103)	
		人間科学部　医療福祉学科	6 (6)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	76 (74)	
		人間科学部　子ども教育学科	5 (5)	5 (5)	2 (2)	1 (1)	13 (13)	0 (0)	98 (97)	
		心理学部　心理学科	8 (8)	3 (3)	3 (3)	4 (4)	18 (18)	0 (0)	94 (93)	
		保健医療学部　理学療法学科	8 (8)	2 (2)	1 (1)	2 (2)	13 (13)	0 (0)	78 (76)	
		保健医療学部　作業療法学科	5 (5)	0 (0)	2 (2)	1 (1)	8 (8)	0 (0)	77 (75)	
		保健医療学部　言語聴覚学科	4 (4)	1 (1)	1 (1)	3 (3)	9 (9)	0 (0)	80 (78)	
		計	41 (41)	15 (15)	13 (13)	13 (13)	82 (82)	0 (0)	— (—)	
	合計		45 (45)	16 (16)	15 (15)	16 (15)	92 (91)	0 (0)	— (—)	

教員以外の職員の概要	職種	専任	兼任	計	
	事務職員	43 人 (43)	8 人 (11)	51 人 (54)	
	技術職員	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	図書館専門職員	1 (1)	2 (2)	3 (3)	
	その他の職員	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	計	44 (44)	10 (13)	54 (57)	

校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	校舎敷地	7,774.34㎡	0㎡	0㎡	7,774.34㎡	
	運動場用地	15,710.80㎡	0㎡	0㎡	15,710.80㎡	
	小計	23,485.14㎡	0㎡	0㎡	23,485.14㎡	
	その他	21,190.55㎡	0㎡	0㎡	21,190.55㎡	
	合計	44,675.69㎡	0㎡	0㎡	44,675.69㎡	
校舎		専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
		25,004.06㎡ (25,004.06㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	25,004.06㎡ (25,004.06㎡)	

教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	
	35室	14室	49室	3室 (補助職員0人)	0室 (補助職員0人)	大学全体

専任教員研究室	新設学部等の名称	室数	
	人間科学部　社会創造学科	10 室	

図書・設備	新設学部等の名称	図書〔うち外国書〕 冊	学術雑誌〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	
	人間科学部 社会創造学科	34,783〔2,422〕 (34,783〔2,422〕)	58〔0〕 (58〔0〕)	0〔0〕 (0〔0〕)	5,882 (5,882)	370 (370)	45 (45)	視聴覚資料は学部単位での特定不能なため、大学全体の数
	計	34,783〔2,422〕 (34,783〔2,422〕)	58〔0〕 (58〔0〕)	0〔0〕 (0〔0〕)	5,882 (5,882)	370 (370)	45 (45)	

図書館	面積	閲覧座席数	収納可能冊数	
	954.5㎡	214	100,000	大学全体

体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要		
	1,377.1㎡	野球場1面	テニスコート4面	

経費の見積及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	経費の見積もりは、大学全体なお、図書費にはデータベースの整備費（運用コスト含む）を含む
経費の見積り	教員１人当り研究費等		490千円	490千円	490千円	490千円	—	—	
	共同研究費等		1,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	—	—	
	図書購入費	5,783千円	2,573千円	2,573千円	2,573千円	2,573千円	—	—	
	設備購入費	53,786千円	17,061千円	17,061千円	17,061千円	17,061千円	—	—	

学生１人当り納付金	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
	1,290千円	1,090千円	1,090千円	1,090千円	—千円	—千円

学生納付金以外の維持方法の概要	私立大学等経費補助金、雑収入　等

既設大学等の状況

大学の名称	大阪人間科学大学								
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
人間科学部		195		780		0.74	平成13年度	大阪府摂津市正雀１丁目４番１号	令和2年度より学生募集停止（人間科学部健康心理学科、医療心理学科、理学療法学科）
社会福祉学科	4	80	3年次0	320	学士（社会福祉学）	0.87	平成13年度		
医療福祉学科	4	40	-	160	学士（医療福祉学）	0.50	平成24年度		
子ども教育学科	4	75	3年次0	300	学士（子ども教育学）	0.74	平成24年度		
健康心理学科	4	—	—	—	学士（心理学）	—	平成17年度		
医療心理学科	4	—	—	—	学士（医療心理学）	—	平成24年度		
理学療法学科	4	—	—	—	学士（理学療法学）	—	平成28年度		
心理学部		90		360		1.11	令和２年度		
心理学科	4	90	3年次0	360	学士（心理学）	1.11	令和２年度		
保健医療学部		140		560		0.74	令和２年度		
理学療法学科	4	60	—	240	学士（理学療法学）	0.88	令和２年度		
作業療法学科	4	40	—	160	学士（作業療法学）	0.66	令和２年度		
言語聴覚学科	4	40	—	160	学士（言語聴覚学）	0.61	令和２年度		

大学の名称	大阪人間科学大学大学院							
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍		
人間科学研究科	2	10	—	20	修士（人間科学）	1.04	平成18年度	大阪府摂津市正雀１丁目４番１号

附属施設の概要	該当なし

学校法人　薫英学園　設置認可等に関わる組織の移行表

令和5年度	入学定員	編入学定員	収容定員		令和6年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
大阪人間科学大学					**大阪人間科学大学**				
人間科学部					人間科学部				
社会福祉学科	80	3年次 0	320		社会福祉学科	60	3年次 0	240	定員変更（△20）
医療福祉学科	40	—	160		医療福祉学科	30	—	120	定員変更（△10）
子ども教育学科	75	3年次 0	300		子ども教育学科	60	3年次 0	240	定員変更（△15）
					社会創造学科	30	3年次 0	120	学科の設置（届出）
心理学部					心理学部				
心理学科	90	3年次 0	360		心理学科	105	3年次 0	420	定員変更（15）
保健医療学部				→	保健医療学部				
理学療法学科	60	—	240		理学療法学科	60	—	240	
作業療法学科	40	—	160		作業療法学科	40	—	160	
言語聴覚学科	40	—	160		言語聴覚学科	40	—	160	
計	425		1700		計	425		1700	
大阪人間科学大学大学院					**大阪人間科学大学大学院**				
人間科学研究科					人間科学研究科				
人間科学専攻（M）	10	—	20		人間科学専攻（M）	10	—	20	
計	10	—	20		計	10	—	20	

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人間科学部　社会創造学科）

科目区分				授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
基礎科目	一般基礎科目	自らを見つめ、社会との関係を築く		ＦＡ演習	1前	2				○				2	1			
				対人援助演習Ⅰ	1前	1				○							兼7	
				対人援助演習Ⅱ	1後	1				○		1					兼15	オムニバス・共同
				社会と共生Ⅰ	1前		1			○							兼1	
				社会と共生Ⅱ	2前		1			○							兼1	
				社会と共生Ⅲ	3前		1			○							兼1	
				人権と倫理	1後		2		○								兼1	
				人間関係Ⅰ	1前・1後		2		○								兼1	
				医療倫理	1後		2		○								兼1	
				日本語基礎	1前		2		○								兼2	
				文章表現法	1後		2		○								兼2	
				ソーシャルマナーⅠ	1前		2		○								兼1	
				ソーシャルマナーⅡ	1後		2		○								兼1	
				キャリアデザインⅠ	1前		2		○								兼1	
				キャリアデザインⅡ	2後		2		○								兼1	
		自らを取り巻く社会を理解する		社会学	1前		2		○								兼2	
				生活と統計	2前		2		○								兼1	
				社会調査論	1後		2		○								兼1	
				生物学	1後		2		○								兼1	
				多文化共生	1後		2		○								兼1	
		自らの技術を磨く	情報処理	情報処理演習Ⅰ	1前		1			○							兼2	
				情報処理演習Ⅱ	1後		1			○							兼2	
				情報システム基礎Ⅰ	1後		1			○							兼1	
				情報システム基礎Ⅱ	2前		1			○							兼1	
			健康体育	スポーツ実技Ⅰ	1通		2				○						兼4	
				スポーツ実技Ⅱ	1通		2				○						兼2	
				ヘルスプロモーション	1前		1		○								兼1	
			外国語	ｵｰﾗﾙﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ（英語）Ⅰ	1前		1			○							兼5	
				ｵｰﾗﾙﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ（英語）Ⅱ	1後		1			○							兼5	
				ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ（英語）Ⅰ	2前		1			○							兼2	
				ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ（英語）Ⅱ	2後		1			○							兼2	
				医療英語	2後		1			○							兼1	
			就業力	簿記会計	1後		2		○								兼1	
				社会人基礎学力（数学）	1前・1後		2		○								兼1	
				キャリアデザインⅢ	3後		2		○								兼1	
				キャリアデザインⅣ	3後		2		○								兼1	
		小計（３６科目）			－	4	53	0	－			1	0	2	1	0	兼49	
	専門基礎科目	自らを社会の中で活かす	専門基礎	プレ演習Ⅰ	2前	2				○		3	1	1	1			共同
				プレ演習Ⅱ	2後	2				○		4			1			共同
			福祉	社会福祉概論	1前		2		○								兼1	
				社会問題論	1後		2		○								兼1	
				ジェンダー論	2前		2		○								兼1	
				人間工学	2後		2		○								兼1	
			心理	心理学入門	1前		2		○								兼2	
				発達心理学	2前		2		○								兼2	
				障害者の心理	2後		2		○								兼1	
				高齢者の心理	2後		2		○								兼1	
			医療・リハビリ	医学知識	1前・1後		2		○								兼1	
				リハビリテーション概論	1前		2		○								兼1	
				精神医学Ⅰ	2前		2		○								兼1	
			教育	教育心理学	1後		2		○								兼1	
				特別支援教育原論	1前		2		○								兼1	
		小計（１５科目）			－	4	26	0	－			4	1	1	1	0	兼14	
	小計（５１科目）				－	8	79	0	－			4	1	2	2	0	兼63	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	社会学基礎科目	社会創造学概論	1前	2			○			1	1	1				共同
		社会学概論Ⅰ	1前	2			○			1						
		社会学概論Ⅱ	1後	2			○			1						
		文化人類学	1前		2		○				1					
		社会と文化	1後		2		○			1						
		社会とメディア	1後		2		○					1				
		地域社会学	1前		2		○				1					
		産業社会学	1後		2		○			1						
		社会調査演習	2後		1			○		1						
		法学	1後		2		○								兼1	
		行政学	2前		2		○			1						
	現代社会関連科目	現代と社会	1前		2		○			1						
		地域子育て支援社会論	1後		2		○				1					
		フィールドワーク論	1後		2		○			1						
		経済学	1後		2		○								兼1	
		商学	1後		2		○			1						
		経営学	2前		2		○			1						
		簿記会計（応用）	2前		2		○			1						
		大衆文化論	2前		2		○				1					
		知的財産法	2前		2		○					1				
		広告論	2前		2		○			1						
		マーケティング論	2前		2		○			1						
		インターネットビジネス論	2後		2		○					1				
		NPOとソーシャルビジネス	2後		2		○					1				
		情報科学	3前		2		○						1			
		情報ネットワーク論	3後		2		○					1				
		地域産業論	3前		2		○			1						
		地域振興論	3後		2		○			1						
		流行科学論	3前		2		○				1					
		サブカルチャー論	3後		2		○				1					
		ビジネスプランⅠ	3前		2		○					1				
		ビジネスプランⅡ	3後		2		○					1				
	未来型社会関連科目	認知科学	2前		2		○						1			
		論理的思考法	2後		2		○						1			
		リスクコミュニケーション論	2後		2		○			1						
		メディアコンテンツ論	3前		2		○						1			
		インストラクショナルデザイン	3前		2		○						1			
		参加型デザイン論	3後		2		○						1			
		ライフデザイン論	4前		2		○					1				
		自己表現技術論	1前		2		○						1			
		コミュニケーションデザイン論	2後		2		○					1				
		社会実践演習Ⅰ	2前	1				○		3	1	1	1			共同
		社会実践演習Ⅱ	2後	1				○		3	1	1	1			共同
		社会実践実習Ⅰ（フィールドワーク）	2後		1			○		3	1	1				共同
		社会実践実習Ⅱ（インターンシップ）	3前		1				○	3	1	1				共同
	社会表現関連科目	実践情報処理Ⅰ	1前		1			○				1				
		実践情報処理Ⅱ	1後		1			○					1			
		実践情報処理Ⅲ	2前		1			○					1			
		実践情報処理Ⅳ	2後		1			○				1				
		実践情報処理Ⅴ	3前		1			○					1			
		写真・映像制作基礎	1前	2			○						1			
		音声科学	1後	2			○						1			
		データベース概論	2前		2		○					1				
		データ分析Ⅰ（SPSS）	2前		1			○					1			
		データ分析Ⅱ（NVivo）	2後		1			○					1			

専門科目	社会表現関連科目	コンピュータ技術Ⅰ	1前		1			○				1	1			共同
		コンピュータ技術Ⅱ	1前		1			○					2			共同
		コンピュータ技術Ⅲ	1後		1			○				1	1			共同
		コンピュータ技術Ⅳ	1後		1			○					2			共同
		コンピュータ技術Ⅴ	2前		1			○				1	1			共同
		コンピュータ技術Ⅵ	2前		1			○					2			共同
		コンピュータ技術Ⅶ	2後		1			○				1	1			共同
		コンピュータ技術Ⅷ	2後		1			○					2			共同
		社会表現演習Ⅰ	3前		1			○				1	1			共同
		社会表現演習Ⅱ	3前		1			○					2			共同
		社会表現演習Ⅲ	3後		1			○		1			1			共同
		社会表現演習Ⅳ	3後		1			○		1			1			共同
		社会表現総合演習Ⅰ	4前		1			○					2			共同
		社会表現総合演習Ⅱ	4前		1			○		4	1	1	2			共同
	ゼミ	社会創造学演習Ⅰ	3通	4				○		4	1	2	2			
		社会創造学演習Ⅱ	4通	4				○		4	1	2	2			
		卒業研究発表	4後	2				○		4	1	2	3			共同
	小計（７２科目）		－	22	100	0	－			4	1	2	3	0	兼2	
合計（１２３科目）			－	30	179	0	－			4	1	2	3	0	兼65	

学位又は称号	学士（社会創造学）	学位又は学科の分野	社会学・社会福祉学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業必修科目を含む基礎科目３４単位以上（ただし外国語２単位を含む）、卒業必修科目を含む専門科目９０単位以上を修得し、１２４単位以上を修得すること。なお、基礎科目・専門科目それぞれの取得単位数は、２０単位を上限としてもう一方の科目分類の取得単位数に読み替えることができる。 【履修科目の登録の上限】４８単位（年間：ただし、集中講義等は除く、また成績優秀者については別途８単位の履修を可とする。）	１学年の学期区分	２学期
	１学期の授業期間	１５週
	１時限の授業時間	９０分

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人間科学部　社会創造学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	一般基礎科目	ＦＡ演習	大学での学修は高校までの学習とは専門性の高さ、学習方法等で異なる。本授業は、4年間にわたる大学での学修をスムーズにするため、以下の3つのねらいをもとに演習を行う。 （1）大学の制度や設備を知り、大学での学修行動に適用する。 （2）講義スタイルに応じたノートの取り方やレポートの書き方等大学で求められる基本的な学習技術を学ぶ。 （3）少人数制のグループ学習を進める中で、多様な考えをもった他者を理解しつつ、自らの考えを伝えていきながら、人間関係を構築する。	
基礎科目	一般基礎科目	対人援助演習Ⅰ	対人援助において最も重要なのは、コミュニケーション能力である。コミュニケーションは、自分自身を知り、他者を知り、そして両者をつなぐコミュニケーション手段を知ることから構成される。本授業では、すべての対人援助専門職の現場や社会課題の解決を図る上でも必要不可欠となるコミュニケーション能力の向上を図るために、少人数演習形式での実践的なコミュニケーショントレーニングを行う。授業で身に付いたコミュニケーション能力は、後に控える専門演習授業や学外現場実習、インターンシップ等において有効性を発揮することが期待される。	
基礎科目	一般基礎科目	対人援助演習Ⅱ	本学の学生はそれぞれの学部学科において対人援助の専門職業人やそれらの専門性を理解し社会課題の解決を図ることができる人材を目指している。チーム支援の重要性が高まる中、それぞれの学部学科で養成する対人援助専門職がどのような視点や技術を持って支援を行っているのかを知ることは極めて重要である。本授業では、本学のすべての学部学科の分野をオムニバス形式かつ少人数演習形式で学び、幅広い様々な対人援助職の視点や技術を体感してもらう。 （オムニバス方式／全15回・初回は学長（11　井上博司）から本学の教育目標と本科目の関係について、（1　山口俊介）からチームとしての課題解決の重要性について講義を実施）（共同） （19　武田卓也/2回）（15　大野まどか/2回） 社会福祉・介護福祉分野の専門職がどのような視点や技術を持って対人支援を行っているのかを学ぶ。 （29　桝田浩三/2回）（23　丸山亜実/2回） 視能訓練士がどのような視点や技術を持って対人支援を行っているのかを学ぶ。 （27　城越幸一/2回）（13　須河内貢/2回） 保育・幼児教育分野の専門職がどのような視点や技術を持って対人支援を行っているのかを学ぶ。 （32　芹田卓身/2回）（33　高木麻未/2回） 心理分野の専門職がどのような視点や技術を持って対人支援を行っているのかを学ぶ。 （26　奥村裕/2回）（39　弓岡まみ/2回） 理学療法士がどのような視点や技術を持って対人支援を行っているのかを学ぶ。 （20　辻薫/2回）（31　木下亮平/2回） 作業療法士がどのような視点や技術を持って対人支援を行っているのかを学ぶ。 （35　青木弥穂/2回）（36　岡孝夫/2回） 言語聴覚士がどのような視点や技術を持って対人支援を行っているのかを学ぶ。	オムニバス 共同
基礎科目	一般基礎科目	社会と共生Ⅰ	「社会と共生」はそれぞれ1,2,3年次開講の3科目にわたって授業展開をし、社会の規範に基づく自己管理ができ、他者を理解し思いやりを持ってチームワークが実践できる人材を養成する。「社会と共生Ⅰ」では、学内での演習授業を経て、夏季に地域理解を目的とした「社会と共生Ⅱ」との合同のフィールドワークを実践する。 フィールドワークでは2年次生から体験的にセルフマネジメントを学修し身に付けることで、成長を実感することができる。最終的には自己理解を深め自己を制御しつつ社会生活を送る力と、社会規範に沿って考え社会人としての行動規範を身に付ける。	

基礎科目	一般基礎科目	社会と共生Ⅱ	本演習では、自己と他者との関係を理解し、他者と信頼関係を構築できる能力を身に付ける。「社会と共生Ⅰ」と合同の夏季フィールドワークでは、本演習履修の2年次生が主体となって1年次生とフィールドワーク実践を体験することから他者理解とチームワークを学修し身に付け、成長を実感することができる。また、授業最終盤の1,3年次との3学年合同ワークでは、2年次生として他者に働きかけ他者とともにチームの一員として活動できる能力も養う。	
基礎科目	一般基礎科目	社会と共生Ⅲ	「社会と共生」シリーズ最終となる本演習では、リーダーとして自らの責任を自覚し、主体的にチーム内部に働きかけていく力と、思慮深いリーダーシップのもと、社会に対して働きかける力を身に付ける。夏季には「地域を限定し共生に向けた課題把握」を目的とした、より実践的な3年次生のみのフィールドワークを実施し、現状を分析し発見した課題に対する目標を設定し解決に向けて実践する行動力を養う。そして、フィールドワークを通じた学びの集大成として、授業最終盤の3学年合同ワークでは、３年次生が主体的に2・1年次生を先導し、地域課題について考える実践からリーダーシップ能力・他者を思いやることを身に付ける。	
基礎科目	一般基礎科目	人権と倫理	本講義では障がい者問題を通し、なぜ人権は尊重されなければならないのか、そして、いま課題となっている人権問題に対し、どのように対応していかなければならないのかを検討していく。また、このような人権を踏まえ、共生社会の実現において求められる倫理について、福祉現場の事例を通して具体的に考察する。「人間の尊厳と自立」「介護における尊厳の保持・自立支援」をテーマとし、人権に対する理解を深め、共生社会の実現に向けて求められる倫理観を身に付けることを目標とする。	
基礎科目	一般基礎科目	人間関係Ⅰ	柔軟で豊かな人間関係がもてるかどうかは、その人の人格の成熟度と密接な関係がある。本講義では、日本で現実に起こっている具体的事象（少子化やパラサイト・シングル、不登校やいじめ、早期知育教育、子どもの食卓の変貌など）を通して、現在日本において人間関係が極めて危うくなっている現実を具体的に提示し、学びの材料とする。また、それらの事象を本講義では、人格発達という視点と、日本社会のここ40～50年の急激な変容という視点から考察し、考える材料とする。本講義では学生がすでに経験してきた場面（家族、学校、地域など）での人間関係を振り返り、あるいは自分の将来をシミュレーション（仮想）する、という形で講義を進める。そのことにより今後、成熟した社会人として、自分で考え行動できる人材の養成を目指す。	
基礎科目	一般基礎科目	医療倫理	我々は、あらゆる人々の権利を尊重しながら生きていかなければならない。そのためには倫理学的知識基盤を高め、倫理的指針をもちながら行動しなくてはならない。本講義では、まず「倫理とは何か」また「医療における倫理とはどのような意味をもっているのか」について学ぶ。我々の日常生活や臨床のなかで発生する倫理的問題や課題について自らの力で思索できるようになるために具体的な事例を示し、議論を交えた講義を展開していく。生殖医療、出生前検査、中絶問題、安楽死、障害者の権利などの事例をもとに、現代の医療や社会が治療や研究においてどのような倫理問題に直面しているのかを理解する。また他者の苦しみへまなざしを向けられるようNarrative-based Medicineについても学修する。	
基礎科目	一般基礎科目	日本語基礎	我々は通常日本語によって生活し、考え、表現している。日本語の性質、特徴の基本を理解したうえで、正確に読み、聞き、表現することがこれからの社会生活の基盤となる。日本語の成り立ちから構造や性質、語彙、文章表現上の基礎的な決まり事などを、実践的な演習を取り入れながら学ぶ。本科目の到達目標は、日本語の構造や特徴についての基礎的な知識を身に付けることであり、日本語を正確に読んだり、的確な表現を行うための基礎的な技術を修得したうえで、実践的な演習などにより日本語の活用能力を高めることである。	
基礎科目	一般基礎科目	文章表現法	文章表現の力は、社会で生きていく上でなくてはならない大切な能力である。さらに、表現することは自分が他の人とつながることでもあり、生きていく喜びにもなる。正確で、達意の文章表現ができるよう、基礎ステップからはじめて、場面に応じた実践的な表現力が身に付くよう学ぶ。本講義の到達目標は、日本語のもつ特質をよく理解したうえで、実践的な表現力を身に付けることであり、正しく表現するための基礎として、まず他の文章を校正、吟味するスキルを修得する。さらに、様々な場面での実践的な表現方法を学ぶことで、コミュニケーション能力の向上と自己表現につながる文章表現力を身に付ける。	

基礎科目	一般基礎科目	ソーシャルマナーⅠ	本科目では、「社会人基礎力」として必要な「ビジネスマナー･仕事への心構え･態度･言葉遣い･立ち居振る舞い･企業に関する基礎知識及びコミュニケーションスキル」を身に付け､実践する力を養う。講義形式での知識の修得だけでなく､演習やケーススタディによって、実際に活用していける力を個々に向上させることを目指していくものである。これらの知識やスキルは､インターンシップや専門職となるための学外実習や就職活動でも必要となる。なお本科目は秘書検定3級の取得にも対応する内容となっている。	
基礎科目	一般基礎科目	ソーシャルマナーⅡ	ソーシャルマナーⅠで基本的な「ビジネスマナー･仕事への心構え･態度･言葉遣い･立ち居振る舞い･企業に関する基礎知識及びコミュニケーションスキル」を身に付けた者を対象に、より複雑な状況に対応できる能力を身に付けることを目標とする。現代社会では効率よく仕事を遂行することが求められている。そのためには優先順位を考えて行動することはコミュニケーション同様に重要である。なお本科目は秘書検定2級の取得にも対応する内容となっている。	
基礎科目	一般基礎科目	キャリアデザインⅠ	キャリアデザインのスタートである『自分の強み(得意なこと)、志向(求めていること)、価値観（大切にしたいこと）』などを理解する。それらをベースに社会人／仕事人になる時の自分をイメージしながら、大学生／学習人としてのライフ(生き方)プランを設定する。そして「自分を理解する」ことは一人で考えるのではなく、他者とのコミュニケーション･関係構築で進めていくことが大事であり、本授業で仲間とのコミュニケーションを通じて理解を図ることも狙いの一つとしている。	
基礎科目	一般基礎科目	キャリアデザインⅡ	大学生の就職環境は「入社・入職行動（いわゆる就職活動）」から「入社後の仕事継続」へテーマが移ってきた。「大卒就職者の3割が3年で辞める」という状況が続いていることは働くことへの「リアリズム（現実味をもって仕事を考える）」が希薄なことも一因であろう。学生時代に現実味を持って仕事を体験する方法に「インターンシップ」がある。本授業では擬似的に就業体験をする為に「学内インターンシップ（ＲＪＰワークショップ）」を実施し、実際に就職した際に必要とされる「社会人基礎力」の啓発と向上を「体験型学習」で理解していく。	
基礎科目	一般基礎科目	社会学	今日の社会は、グローバル化の中で、家族関係、地域社会、働き方、メディアとの関係などがめまぐるしく変化し、それに伴い、様々な社会問題も引き起こされている。社会学は、日常生活で何気なくおこっている行動や起こる出来事について疑問を持ち、再考するときに役立つ学問である。 本講義では、社会を構成する様々な領域についての基本的な知識を得ながらその仕組みや変化の様相を解明し、現代の日本社会への理解を深めることを目的としている。	
基礎科目	一般基礎科目	生活と統計	官庁統計や簡単な調査報告、フィールドワーク論文を読むための基本的な知識を修得することを目的とし、基本的な統計手法を概観しながら、研究方法としての統計の機能を構築する。度数分布、代表値・散布度、相関などの記述統計の扱い方、及びt検定やカイ2乗検定などの統計的検定の手法について模擬データを用いて実践的に学ぶことで、統計的数値の意味や結果の読み取り方について理解を深め、統計情報を正しく読み取る力を修得する。	
基礎科目	一般基礎科目	社会調査論	社会調査の理念と意義を学び、社会調査の諸類型と調査のための基本的な事項を解説する。具体的には、社会調査史、社会調査の目的とそれに適合した方法、量的調査と質的調査の違い、調査倫理など、社会調査を初めて学ぶ学生にその全体像を把握させることを目的とする。後半部では、自分たちで簡単なインタビューやアンケート票の作成・調査を実施することで、調査の手順や調査の流れを把握しながら、調査結果を分析する方法を身に付ける。	
基礎科目	一般基礎科目	生物学	我々ヒトを含めた全ての生物は進化の産物である。生物が示す様々な性質について進化の視点から理解を深める。講義では遺伝や進化の仕組みから始めて、生物の性質がどのように進化的な文脈で理解できるかを紹介していく。高校までの授業やテレビでは取り上げられないような内容も積極的に取り上げ、世の中に蔓延する誤った生物観も指摘し、社会に広く見られる進化学への誤解・誤認について正しい認識を得る。進化学への理解を深めることで、今後の専門的な学修のための基礎知識を身に付ける。	

基礎科目	一般基礎科目	多文化共生	同じ日本人同士であっても、性別・地域・職業・年齢・社会的立場等の違いによる副次文化（下位文化またはサブ・カルチャー）の違いが存在する。こうした視点で、異文化を捉え、この異文化を通して自文化を相対化できることを学ぶ。「郷に入れば郷に従え」の妥当性、他者との出会い、自己への気づき、他者との共存、「強い文化」と「弱い文化」、「強い言語」と「弱い言語」を講義だけでなく、セルフチェックや協同学習によって学ぶ。多値的考え方を通して「文化やサブ・カルチャー」を検証し、自文化観察調査を通して自文化を見直す。こうした学びが、ステレオタイプ・偏見・差別の根絶に貢献するかどうかを検証する。	
基礎科目	一般基礎科目	情報処理演習Ⅰ	マイクロソフト・オフィスの基本ソフト（Word、PowerPoint）の基本レベルの操作技術を、コンピュータ実習室内のコンピュータとLANを用いて修得する。現在は、ありとあらゆる場面でコンピュータが普及し情報技術が必要とされ、コンピュータを利用する技能が必要不可欠である。本演習は、コンピュータの基礎能力を身に付けることが目標であり、コンピュータの基本操作から、インターネットの活用、アプリケーションソフト（ワープロソフト、プレゼンテーションソフト）の基本操作修得を目指す。	
基礎科目	一般基礎科目	情報処理演習Ⅱ	今日、コンピュータは広く一般に普及し、学修・研究においても、ビジネスにおいても、必要不可欠な道具となった。このことは、我々にとって、コンピュータを利用する技能が必要不可欠となったことをも意味している。本演習のねらいは、利用される機会が多いアプリケーションソフト、具体的には、ワープロソフト及び表計算ソフトの利用方法・操作方法を修得することである。これらのソフトには多種多様な機能が備わっているが、本演習では、実用的な文書（レイアウトの整った文書、図・表・グラフ等を含んだ文書、など）を作成するのに必要と思われる基本的な機能を扱う。また、表計算ソフトに関しては、数式や関数を利用した演算の基本を身に付けることも目指す。	
基礎科目	一般基礎科目	情報システム基礎Ⅰ	現代社会では、ITは日常生活においてもビジネスにおいても業種・職種を問わず浸透しており、様々な場面でITに関する知識・技術が必要とされている。本演習では、そのような現代社会に生きる社会人に必要なIT の基礎的知識だけでなく、社会人として身に付けておきたい経営やマネジメントに関する知識などを幅広く学ぶ。「情報システム基礎Ⅰ」では、経営戦略、財務、法務など経営全般（ストラテジ系）に関する基本的な考え方と、プロジェクトマネジメント、システム開発などIT管理（マネジメント系）に関する基本的な考え方について理解を深める。なお、本科目はITパスポート資格国家試験に対応した内容となっている。	
基礎科目	一般基礎科目	情報システム基礎Ⅱ	現代社会では、ITは日常生活においてもビジネスにおいても業種・職種を問わず浸透しており、様々な場面でITに関する知識・技術が必要とされている。本演習では、そのような現代社会に生きる社会人に必要なIT の基礎的知識だけでなく、社会人として身に付けておきたい経営やマネジメントに関する知識などを幅広く学ぶ。「情報システム基礎Ⅱ」では、ネットワーク、セキュリティ、データベースなどIT技術（テクノロジ系）に関する基本的な考え方について理解を深める。なお、本科目はITパスポート資格国家試験に対応した内容となっている。	
基礎科目	一般基礎科目	スポーツ実技Ⅰ	健康を維持増進させるための科学知識を理解し、スポーツの実践を通して自主的な体力・健康づくりを目指す。具体的には、開講授業は30回を予定し、第１回は「スポーツ実技Ⅰ」受講上の留意事項の説明、第2回～第3回はアイスブレーク、からだほぐし、第4回～7回は自己体力の把握の為、体力測定をする。第8回～30回はバドミントン、レクリエーションバレー、卓球、テニス、バスケットボール、ミニサッカー、ゴルフなどの種目を実施する。実施にあたっては、個人の技能の向上とチームプレーを通して社会性の育成を課題とする。	
基礎科目	一般基礎科目	スポーツ実技Ⅱ	健康を維持増進させるための科学知識を理解し、スポーツの実践に積極的に関わり、技能の向上、チーム力、リーダーシップの在り方などを学ぶ。最初に体力測定を実施し、自己の体力測定の結果を分析、評価した上で健康論、トレーニング論、スポーツ心理、スポーツ理論などの講義を行う。実技種目は、バレーボール、フットサルを実施する。前半は基礎技術、フォーメーションなど、後半はゲームを行い、基礎技術やフォーメーションの振り返りを行う。個々の技能の向上、健康・体力の維持増進、社会性の育成を目指す。	

基礎科目	一般基礎科目	ヘルスプロモーション	現代人は急速に変化する社会環境の中で様々なストレスと闘いながら生活することを余儀なくされている。そのことから心身とも疲弊し、健康を損う場合もある。本授業では人間本来持っている自然治癒力（免疫力）を高め、どのようにして健康的な生活ができるかを考え、実践できるようにする。具体的には以下の項目について学ぶ。 ・栄養素の詳細を学び、運動・健康と栄養との関連性を考え、運動及び健康に効果的な食事の内容を考えられるようにする。 ・運動が身体に与える影響を学び、効果的で安全に運動を実施できるようにする。 ・足跡計測、肺活量、反応テスト、身体組成、血圧、握力、上体起こし、反復横跳び、立ち幅跳びなどを測定して、運動と身体の評価・分析方法を学び、効果的・安全に運動を実践するための知識を身に付ける。	
基礎科目	一般基礎科目	ｵｰﾗﾙﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ（英語）Ⅰ	高等学校で学んだ英語を復習することから始まり、リスニング・読解・文法・作文の総合力を向上させるために、身近な話題を使って学修する。 パラグラフとは何かを学び、英語のパラグラフ構造を学ぶ。また、英文をクリティカルに読む訓練をする。グループワーク・英語での発表・その他のアクティビティも授業に取り入れる。記述文・説明文を書く練習を通して、″transitions″の使い方も学ぶ。どちらかと言えば、″BICS″のスキルを向上させる訓練に重点を置く。	
基礎科目	一般基礎科目	ｵｰﾗﾙﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ（英語）Ⅱ	リスニング・読解・文法・作文の総合力を向上させるために、身近な話題を使って学修する。英語のパラグラフ構造を復習する。英文をクリティカルに読むだけではなく書けるよう訓練をする。グループワーク・インタビューに基づくグループ発表・その他の活動を授業に取り入れる。〝Transitions″を復習しながら、簡単な論証文を書く訓練をする。英文を仮説形成的に、また「仮説演繹法」的に読むことも学修する。〝BICS″の訓練もするが、〝CALP″学習により、認知的に言語を捉えるようにする。	
基礎科目	一般基礎科目	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ（英語）Ⅰ	1年次にオーラルワークショップで修得した「聞く・話す・読む・書く」の英語基礎力の向上を目的とする。修得した語彙や文法上の知識を使う楽しさを味わってもらう。ペアワークも取り入れる予定である。多様性のある社会で人々が共生できるよう、様々な国の人々とコミュニケーションできる能力を向上させるために、英語の聞く・話すスキルを向上させるとともに、接続詞 等を通して、論理的に英文リテラシー（英文を読み書きするスキル）を高める。	
基礎科目	一般基礎科目	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ（英語）Ⅱ	コミュニケーション（英語）Ⅰの内容を発展させる。語彙、定型文を増やすために、場面を増やす。会話でよく話される天候やレストランでの会話、さらに環境に関する問題から文化の違いや問題についてまで質問、回答を繰り返し定着させる。また、病気と治療に関する一般的な英語についてもストックするフレーズを増やす。英語の質問に即対応、返答でき、英語を使う楽しさを知ることを本授業の到達目標とする。	
基礎科目	一般基礎科目	医療英語	当科目の主な目的は、医療分野の英語論文の読解力を身に付けることとする。解剖学、生理学、運動学などの人体の構造や機能に関する学問のみならず整形外科、神経内科学やリハビリテーション医療といった専門的な学問において、よく使われる用語や表現について教授する。さらに、医療現場で必要となる簡単な英会話表現など、幅広い領域を扱う。最終的には、各々が医療分野における英語論文の内容を把握し、著者の主張や研究成果の重要性について理解し、レポートにまとめる。	
基礎科目	一般基礎科目	簿記会計	現在、業務を遂行するうえで、どのような職種であれ、財務会計の知識が重要となっている。本授業では、短期集中で、社団法人全国経理教育協会主催「全経簿記能力検定試験3級（商業簿記）」レベルの基礎知識を修得し、資格取得まで目指す。テキストの内容を中心に基本項目の説明を行い、問題集にて実際に問題を解き、理解を深めていく。簿記会計の初心者でも習熟度レベルに合わせ、基礎から応用、試験対策まで、段階を経てステップアップしていく。	
基礎科目	一般基礎科目	社会人基礎学力（数学）	本科目では、社会人基礎力として必要となる数学に関する能力や知識を身に付ける。そのため数学の基礎的知識はもちろんのこと、就職採用試験で実施される筆記試験、公務員試験で出題される数学分野の対策となるよう問題演習に取り組む。社会人として実践的に必要となる数学として「損益算・分割払い・仕事算」「速さ・距離・時間」「推論・集合・グラフ」について理解し、その基礎力を向上させることを目的とする。	

基礎科目	一般基礎科目	キャリアデザインⅢ	働くことの目的、意義について考察するところから始め、就職活動の進め方のレクチャーや就職活動で必要となるスキルを修得する。特に就職活動において重要となる、自己分析をしっかり行い、働く意欲を醸成（モチベーション向上）するとともに自己理解を進める。また、社会保障制度についても理解し、キャリア形成に役立つようにする。キャリア形成の入り口となる就職について、自ら意欲的・積極的に取り組むことを目標とする。	
基礎科目	一般基礎科目	キャリアデザインⅣ	本授業では、就職活動で必要となるスキルの修得を目指す。少人数単位でグループディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションの演習を実施する。また、社会で活躍している方とディスカッション等を行うことで、自分に必要なスキルなどを確認することができる。本科目では、「話す力」 「聞く力」 「考える力」 「見る力」を身に付け、自分の考えや思いをしっかりと伝えることができるようになることを到達目標とする。	
基礎科目	専門基礎科目	プレ演習Ⅰ	初年次教育プログラムの一環として、少人数のゼミ形式をもとに他者とのコミュニケーションを深める体験を積むことで大学における生活習慣の確立と社会化のための心構えを学ぶ。同時に、主体的に課題解決に取り組む姿勢を修得するために、まずは興味や関心のあるテーマから調査研究を実践していく。加えて、大阪産業局における起業支援や中小企業へのセミナーなどの活動内容を知ることで、社会課題の実際及びその課題に対しての関わり方の理解を深め、課題解決の方法やサポート内容についての視野を広げる。	共同
基礎科目	専門基礎科目	プレ演習Ⅱ	「プレ演習Ⅰ」に引き続く科目として、大学における学修と研究、及びまとめ方についての基礎的学習を深め、3年次における社会創造学演習Ⅰへつなげていく。大阪産業局における各種プログラムへの参加企業のwebサイト制作に関わることで、企画提案・企業研究・広報活動及び企業の社会貢献活動の一端を理解するとともに、目的に応じた適切な表現方法を学習する。制作活動を通して、ゼミにおいて取り上げるべき具体的な社会課題の発見力及び解決に向けた他者のコミュニケーション方法やニーズの聞き取りの方法についての実践的な学修を行う。	共同
基礎科目	専門基礎科目	社会福祉概論	本授業の目的は以下の２つである。 （１）社会福祉の基本的な視点・考え方を身に付けるとともに、社会福祉の全体像を把握し、その見取り図を体得する。 （２）社会福祉以外の対人援助や社会課題の解決に関わる人々にとっては、社会福祉とはどのような営みであり、社会福祉に従事する人々は、どのような価値観のもとにどのような範囲で活動しているのかを把握することができる。 本授業を学ぶことで、対人援助の基盤の一つである社会福祉の必要な知識が身に付くとともに、共生社会とそこで活躍する自己のイメージを確立することができる。	
基礎科目	専門基礎科目	社会問題論	社会問題には、社会として解決することの期待、価値観が投影される。貧困・生活困窮の問題は「あってはならない」問題であり、それゆえ社会保障制度や福祉事務所などの公的機関が用意される。本科目は、貧困・生活困窮を題材に、我が国の生活実態と支援の実際を理解しながら、問題がいかに社会化されていくか、その過程と諸要件を社会学の各種理論をもとに検討し、社会問題の構造を理解する。貧困を問うことは、貧困の基準を問うことである。憲法で保障される「健康で文化的な最低限度の生活」を問いながら、我が国の課題を理解する。また、現代社会の貧困問題の現状と課題についても理解し、話し合うことによって人間・社会への幅広い理解ができるようになる。	
基礎科目	専門基礎科目	ジェンダー論	性別について考えることは、社会について考えることでもある。人には女性と男性があるが、その性別や性差が社会の仕組みや私たちの生き方に少なからず影響を与えている。現代社会における様々な問題を、講義形式を用いて「ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別や性差についての社会通念や社会意識）」という視点から分析していく。演習シートや視聴覚教材を用いて、受講生自身が考える機会を提供していく。目の前で起きているたくさんのことを「性別というシステム」という視点からもう一度見直して、考えていきたい。	
基礎科目	専門基礎科目	人間工学	人間工学は、生活しやすい環境を実現し、安全で使いやすい道具や機械をつくること、実践的に考えるための学問である。身近な環境をより良くするために、様々な視点から問題点を発見し、その改善へ向けて具体的方策を導く能力を修得することを授業の目的としている。まず､社会生活の中で生じる人間の特徴的な行動や感覚を客観的に説明､把握するための説明言語と改善のための視点を解説する。またその言語を用い､今まで経験､体験した身の回りの具体的事例について､高齢者､障がい者､幼児等の行動と比較考察することで､社会における生活環境の問題点とその改善方法について具体的方策を導く能力を身に付ける。	

基礎科目	専門基礎科目	心理学入門	本講義の目標は、心理学の基本である「心」の科学的な理解である。「心」は、先行する刺激・環境条件と後続する条件（行動：観察可能な生体の表出現象）を媒介するものとして、行動から推測される。本講義では、先ず心理学の歴史的背景に触れた後、「学習」・「知覚」・「記憶」・「発達」などの諸現象について、最近の認知科学的アプローチの成果も取り入れながら学びを進める。また、動機づけの諸相について、情動的な側面や認知的な影響の見られる点にも触れ、エンジンとしての「心」の機能に関する理解も深める。心理学の研究対象が人間の行動であることを理解し、科学的視点から「心」を捉える。	
基礎科目	専門基礎科目	発達心理学	我々人間は、年齢を重ねるに従い、身体だけでなく心も成長・変化する。子どもから大人にかけて、人の心はいかなる発達を遂げるのか。本講義では、心理学的な知見をもとに、発達による心の変遷についての理解を深めていくことを目的とする。具体的には、胎児期から老年期に至る発達時期の区分の理解に始まり、フロイト、エリクソン、ハヴィガーストの発達段階説から人間の発達過程について理解する。最後に老年期の発達的変化について知的機能、身体的機能、臨床的な側面から理解を深める。	
基礎科目	専門基礎科目	障害者の心理	本授業は講義形式で行い、様々な障害に関する基礎的な知識を学ぶとともに、心理学的観点から理解を深め、支援を行う上で必要とされる基本的な知識を修得することを目標とする。講義内容としては、視覚や聴覚など感覚の障害や身体的障害、乳幼児期にみられる障害や学齢期以降では自閉症スペクトラムや学習障害（ＬＤ）などの発達障害、精神的な障害､認知症などの障害に関する定義や特徴といった基本的な理解とその支援について学修するものである。また、中途障害者の心理や障害のある子どもをもつ親の心理についても本講義内容に含め学修する。	
基礎科目	専門基礎科目	高齢者の心理	現在、日本は急速な高齢社会を迎えており、約四人に一人が高齢者という現状である。そのような現状にあって、介護施設や病院に勤務する専門家はもちろん、専門家ではない人でも高齢者が抱える問題を理解し、うまく付き合っていく必要がある。そのためには、高齢者の心身の特徴を正しく理解するということが重要である。高齢者に対する単なるイメージや推測ではなく、正しい知識を持つことで適切な対応を取ることができると考えられる。本科目では，高齢者の心身の特徴と高齢者が抱える問題について理解を深める。	
基礎科目	専門基礎科目	医学知識	医学一般について、基礎的な知識の修得を目指す。医療者とクライアントの通訳の役割を果たすのに必要な最低限の医学知識を身に付ける。単なる知識にならないよう、身近な問題の中の医学的な側面をさぐる。高齢社会問題、終末期医療、臓器移植など、社会的な問題に興味を持ち、医学的な側面を理解して、総合的な判断力を養う。老人医療、在宅医療などの例を引き、実践的な感覚を身に付ける。教科書的な知識と、現場の感覚のちがいを知り、応用力のある知識を目指す。	
基礎科目	専門基礎科目	リハビリテーション概論	リハビリテーションの理念や制度、その歴史的変遷を理解し、リハビリテーションの各段階、リハビリテーションの過程、リハビリテーション・チームワーク、リハビリテーションに関わる各種専門職の役割、障害別及び疾患別のリハビリテーションに関する知識を修得する。リハビリテーションの概要を理解し、今後、専門科目の学修を進める上で必要な基本的知識を幅広く学修する。具体的には、①リハビリテーション概念と理念、障害構造、リハビリテーションの段階及びリハビリテーションの実践過程②専門職の役割とチームワーク論、リハビリテーションの対象疾患である。	
基礎科目	専門基礎科目	精神医学Ⅰ	現在、精神疾患は国が対策を策定すべき五大疾患に認定されており、その重要性が認識されてきている。また社会生活におけるストレスが増加する中で、精神疾患も増加してきている。日常臨床の場で、精神疾患を持った患者さんとも対応できるよう、単なる知識だけではなく、映像等を通して、精神疾患を理解してゆく。精神医学的な知識を単に身に付けるだけでなく、更にそれを日常の臨床において活かせるレベルにまで到達することを目標とする。具体的には、「精神障害の原因と分類」「精神障害の診断と評価」「脳器質性精神障害・統合失調症・症状性精神障害などの精神疾患の原因、症状、診断、治療法」について理解を深める。	
基礎科目	専門基礎科目	教育心理学	教職課程の教職に関する科目の一環として、本講義は、教育現場に応用可能な心理学的基礎知識はもちろん、生涯発達・生涯教育に関する心理学的観点も獲得できるように意図されている。具体的には、精神分析学的発達理論、愛着行動制御説など代表的な発達理論を紹介した後、オペラント条件づけなど教育現場における学習理論の応用、学級集団の社会心理学的理解、パーソナリティ心理学の応用について学ぶ。最後に統合教育に不可欠な、知的障がい・自閉症・ダウン症など代表的発達障がいの理解を進める。	

基礎科目	専門基礎科目	特別支援教育原論	通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。	
専門科目	社会学基礎科目	社会創造学概論	社会創造学科の初年次教育として、4年間の教育体系を示すとともに理論と実践の往還によって、学生自身が正課内・正課外の様々な取組に主体的に関わり、自らの力をつけていく学びについて理解を深める。本講義では、新たな社会を創造するリーダーの育成を目的とし、社会に新しい価値を創造して、社会に貢献できる人材を育成し、個々人の個性を尊重できる自立した精神の育成するために必要な、「社会を知る」「経済を知る」「環境を知る」ことを目指し、教員と学生のディスカッション形式で実施する。また、社会創造学科の特長である、身に付けた知識やスキルを洗練し定着させるために、あらゆる手法（アクティブラーニング、フィールドワーク、インターンシップ等）により理解を深め「人に伝える力」を養う「実践型」の授業展開の重要性に触れ、以後の専門学修への円滑な接続を図る。	共同
専門科目	社会学基礎科目	社会学概論Ⅰ	本講義は、「社会学的理解の基礎を学ぶ」を講義の基本テーマとし、社会学的な「ものの見方」「発想」「方法」「概念」「理論」等に関する学生の関心や基礎的な理解を身に付けることを目的とする。ただし社会学は、多種多様な現実分析の「発想」「視点」「理論」「方法」を含むので、その多様性や柔軟さを軽やかに受け入れる姿勢も重要である。それゆえ本講義では特定の考えを深堀りするのではなく、「社会学とは何か」に関する基礎的な理解の修得を促すことを意図している。	
専門科目	社会学基礎科目	社会学概論Ⅱ	幅広く社会学の基礎を学び、現代社会における課題を発見し、その解決策を示すことで新たな未来型社会を提案できるような人材を目指す中で、本講義では特に課題を発見する力を養成する。様々な現代社会の問題について、実際に実践されている具体的な解決策を理解することで、解決策から課題の見出し方を学び、その着眼点についてグループディスカッションを通じて理解を図る。また、具体的な実践授業科目のフィールドとして、大学近隣にある「JOCA大阪（公益社団法人青年海外協力協会）」と連携し、小中学生の放課後の学習支援や高齢者との触れ合いを通じて、実地における課題発見力を養う。	
専門科目	社会学基礎科目	文化人類学	文化人類学を学ぶことは「他者」との違いを優劣で判断するのではなく、それぞれの文化的差異を尊重することで自らの視野を広げる姿勢を身に付けることである。本講義では文化人類学の基礎的かつ体系的な理解を目指し、それを通じて文化人類学的な「社会」の見方を身に付ける。具体的には、世界や地域の様々な「他者」としての人にせまり理解することを通して「社会」や文化の多様性を読み解き、その「社会」で発生する構造の変化や課題、自我としての人との関係性とそれらのもつ意味について検証する。	
専門科目	社会学基礎科目	社会と文化	衣食住をはじめとした暮らし、生活様式、価値観など、人々の生活にかかわることの総体としての「文化」は、多種多様な人が共存する「社会」の基盤となるものである。いかなる文化が形成されるかは、その時々の社会状況と密接な関係がある。本講義では、私たちの身近にある文化事象を題材として取り上げ、その成り立ちや現状、今後の展望などについて、社会学的アプローチで学んでいく。文化と社会の関係について、体系的に理解し、身近な文化事象を社会学の概念を用いて分析・考察することで、新たな価値創造に必要な視座を身に付けることを目指す。	
専門科目	社会学基礎科目	社会とメディア	現代社会におけるメディアの役割は大きく、しかも多様化している。本講義ではメディアに関する全般的な理論だけでなく、音楽、出版物、映画、ＴＶ、web、SNSなどの各メディアについての有用性とリスクについても正しく理解していく。さまざまなメディアの誕生と発展の歴史をひもとくことで、これまでのメディアの移り変わりを理解し、今後の社会とメディアの関わりについて考察を深める。そして、自分自身が発信者となる際に何をどのようにどのメディアを活用して伝えていくべきなのかを、実際に発信者となることで実践から学ぶこととする。	

専門科目	社会学基礎科目	地域社会学	グローバル化が進む現代社会において、一元的な視点から特定の地域社会における社会的課題を解決することはますます困難になってきている。複雑性、多元性を増す現代社会においてその地域の社会的課題を解決するには、ローカル（部分）からの視点とグローバル（全体）からの視点が欠かせない。本講義では、現代の地域社会において起こっている様々な社会的課題を自ら発見、考察し、解決への糸口を考える方法を探求する。国内や海外のケーススタディを通じて、グローバルな視点を持ちながら地域社会で社会的課題の解決に取り組み、講義を通して培った課題発見能力、解決能力を活かして現代社会に貢献できる力を身に付けることを目指す。	
専門科目	社会学基礎科目	産業社会学	グローバル化に伴う、産業社会を取り巻く諸問題について考える。今日、国際化や情報化などによる社会の変化により働き方は多様化し、人びとの就業意識や社会との関わり方も変容している。「仕事」はどのように変化しているのか、「働く」とはどういうことなのかといった視点から産業・労働を取り巻く状況を捉え、人々の意識、活動、そしてそれぞれの関わりに着目する社会学の学びについて理解を図る。また、将来の産業社会における生産性と人間性の融合についても検討していく。	
専門科目	社会学基礎科目	社会調査演習	本講義では、受講生が実習を通して独力で社会調査が行なえるようになるための知識を提供する。授業は、（1）調査の設計や分析に必要な統計的知識の修得、（2）調査票の作成ならびに実査、（3）報告書作成で構成されている。調査テーマとして学生にとって身近な問題を設定する。問題設定、対象者選定、調査票作成、集計、データ分析、報告書の作成といった一連の過程を実際に行うことにより、社会調査に必要な知識とスキルを獲得することができる。	
専門科目	社会学基礎科目	法学	本講義では法や法律に関する事柄を学ぶ。法律は、難解な言い回しや専門的な用語が多く、法律専門家だけが扱うものというイメージが強い。しかし実際の現実社会に生きる市民として、私たちは無意識に、場合によっては意識的に法と関わっており、その関わりを完全に拒否することはできない。また社会学や社会福祉などについて専門的に学ぶ学生にとって、「法的」な観点から自らの専門分野に関わる問題や出来事を捉えることは、むしろ積極的に求められることでもあろう。 本講義では、私たちが生きていく中で遭遇しうるいくつかの局面や状況を挙げながら、それぞれにおいて私たちが様々な法（憲法や民法、刑法など）とどのように関わるのかを明らかにする。	
専門科目	社会学基礎科目	行政学	「行政」は我々の身近に多様な形で存在し、現代社会で生活をする上で、行政活動とは多くの関わりがある。本講義では、行政の歴史、活動の仕組み、組織、政策形成など行政に関する基礎的な知識を学ぶ。その上で現代行政に差し迫っている問題点や課題等について、具体的事例から考察する。また、授業後半では、国及び地方公共団体の公共政策の立案過程から、実施・評価に至るまでの流れについても学ぶことでその重要性についても理解を図る。	
専門科目	現代社会関連科目	現代と社会	現代に生きる我々は従来属していた集団、例えば家族、学校、会社、地域、国家、あるいは性や年齢、宗教などの囲いから離れることが容易になり、個々人の信条やライフスタイルに応じた生き方が可能となりつつある。その一方、帰属意識の低下は孤立や無縁を生み出し、「私はどこに立っているのか」を見失う者を多く生み出している。本講義では社会学の理論や概念、様々なデータを使い現代社会を読み解き、より良い社会の姿を模索する。	
専門科目	現代社会関連科目	地域子育て支援社会論	本講義では、地域社会における日常生活の中にある様々な問題について学ぶ中で、地域福祉とりわけ子育て支援を中心に考える。現代社会における子育ての現状と課題を理解し、子育て支援に関する地域福祉の取組について学ぶ。具体的に、様々な自治体における活動を紹介しながら、地域住民が行政機関やNPO法人といった様々な団体とともに福祉課題の解決に取り組む多様な実践例を学ぶことで、次代の子育てにやさしい社会を考察する。	
専門科目	現代社会関連科目	フィールドワーク論	「フィールドワーク」とは、調査対象のフィールドを訪れ、時には人々の生活空間に入り込み、そこでの状況を観察したりインタビューをすることで得られた調査結果から、課題を明らかにし解決を図る調査方法である。本講義では様々な種類があるフィールドワークの技法について、体系的に理解し、それぞれの調査法の特徴について学ぶ。社会創造学科で展開される様々な実践型授業をより有意義なものとするためにも重要な「理論」を理解する授業である。	

専門科目	現代社会関連科目	経済学	経済学は、経済の仕組みや、様々な経済活動の仕組みを研究する学問であり、経済の語源「経世済民」（世を治め、民を救う）にあるように、私たちがよりよく暮らしていくためにある。本講義では、私たちの生活と経済との関わりについて、基礎用語・概念、経済現象を扱い、「豊かさ」という問題を経済的視点からとらえ、「豊かに生活する」ことについて考える。具体的には、景気問題、産業構造、経済成長、金融政策、物価、財政問題などを取り上げ、最新の資料・統計を利用しながらそれらのメカニズムを解釈し、理解することを目指す。講義を通じて、最近の経済状態が私たちの生活にどのような影響をもたらしているかが理解でき、同時に「豊かさ」の真の意味、その実現の道を考える手がかりを得ることを目指す。	
専門科目	現代社会関連科目	商学	商学とは、製品やサービスなど「商品」の生産過程、販売方法、流通システムと消費について研究する学問である。本講義では「商業」「マーケティング」「流通」の概念について理解した上で、企業の活動、特にマーケティングと流通を中心に学びを進める。マーケティングとは個人や企業が消費者の意向を製品に反映したり、その製品を提供する過程を研究するもので、具体的には宣伝広告、販売促進、市場調査といったものを指す。流通分野では商品の流通過程の研究等を行い、商業立地、消費者行動の理解、小売り・卸売業の実際などを学ぶ。	
専門科目	現代社会関連科目	経営学	本講義では、「経営学」及びその中心的な対象の「企業」に関しての考察を深める。社会における企業の活動と、その企業の中で実際に行われている活動を理解し、企業経営の全体像を学ぶ。その上で企業経営における「管理」について、計画・組織・リーダーの役割・統制といった点から明らかにしていく。そして、現代社会において経営が直面している問題を取り上げ、企業経営やその活動にどのような影響を与えているかを確認し、いかに解決していくべきかを検討する。	
専門科目	現代社会関連科目	簿記会計（応用）	基礎科目の「簿記会計」で修得した仕訳から決算までの基礎知識をさらに発展させて、より実践的な簿記会計知識を身に付ける。様々な商取引における具体的な会計処理について学びを深め、財務分析を行うための指標を理解することで財務諸表から企業活動を読み取ることができる力を身に付け、日本商工会議所簿記検定（3級・2級）の資格取得を目指す。基礎科目同様、習熟度レベルに合わせ、基礎から応用、試験対策まで、段階を経てステップアップしていく。	
専門科目	現代社会関連科目	大衆文化論	映画、音楽、大衆演劇、マンガ、アニメーション、野球、サッカー、ブログ、チャット、ゲーム等「大衆文化」の多くはそもそも日常生活の中で形作られ、発展してきたという経緯がある。本講義では、日本のそれぞれの時代における社会意識と対応した形での様々なジャンルの大衆文化について、その内容だけではなく大衆文化がその時代で果たしてきた役割について考察する。かつての大衆文化を学ぶことで、現在にも共通する点を見出し大衆文化の流れを理解し、社会と文化の関わりについて概観する。	
専門科目	現代社会関連科目	知的財産法	人間の知的活動によって生み出されたアイデアや創作物などには、財産的な価値を持つものがある。その中には特許権や実用新案権など、 法律で規定された権利や法律上保護される利益に係る権利として保護されるものがあり、それを「知的財産権」と呼ぶ。具体的には、音楽、映画、絵画などの著作物を保護する著作権、発明を保護する特許権、考案を保護する実用新案権、デザインを保護する意匠権、商品やサービスなどを区別するためのマークを保護する商標権等がある。本講義では個々の企業が知的財産を戦略上どのように位置づけているかを学び、その重要性について理解を深めることを目的とする。	
専門科目	現代社会関連科目	広告論	広告に関する基礎知識から広告マネジメントの考え方について学ぶ。 消費者から支持されるために製品やサービスの広告活動を実践していくには、マーケティングの重要性について理解しておく必要がある。本講義では実際の広告事例から現実の広告活動を捉える洞察力を養い、消費者行動や心理学といった観点からもその関わりについての理解を図る。また、インターネットやソーシャルメディアといった新たなチャンネルを利用した今後の広告活動のあり方についても展望する。	

専門科目	現代社会関連科目	マーケティング論	今日では、マーケティングはものづくりだけでなく、サービス提供も対象として拡大しており、その考え方、理論・フレームワークは企業活動だけでなく、福祉、医療、教育など公共公益分野においても広く取り入れられている。本学科の卒業生もサービス提供に携わったり、ビジネス分野だけでなく公共公益分野での活躍が期待されている。そこで本講義ではまず前半でものづくり・サービス提供に共通するマーケティングの基本事項を取扱い、後半ではサービス・マーケティングの考え方、理論・フレームワークを取扱う。	
専門科目	現代社会関連科目	インターネットビジネス論	インターネットは世界中に広がり、企業だけでなく一般市民の生活にもなくてはならない存在になっている。また、ビジネスの分野においてもインターネットを活用することで、今までには見られなかった新しいビジネスやサービスも生まれてきている。本講義ではインターネットを活用した製品やサービスの広告、販売、決済といったインターネットビジネスについて、具体的な事例を取り上げて、その仕組みについて学ぶ。またインターネットビジネス上、特に重要となるセキュリティについても理解することで、安全に商取引を実施するための基礎的知識を身に付ける。	
専門科目	現代社会関連科目	NPOとソーシャルビジネス	ソーシャルビジネスは、営利のみを追求するビジネスとは異なる新しいビジネスである。高度に複雑化し、成熟化した現代社会における様々な社会的課題は、これまでの公共政策や、企業活動だけではなかなか解決ができないものとなっている。そのような状況の中で、地域コミュニティやＮＰＯによるビジネス、企業の社会貢献活動、その他の非営利活動などが行うより良い社会づくりを目指す活動がソーシャルビジネスである。本講義では、様々なソーシャルビジネス活動を理解したうえで、特にその中心的役割を果たしているNPO法人に着目し、その成り立ちから特徴、意義、具体的な活動内容までを学ぶことで、ソーシャルビジネスのあり方について考察する。	
専門科目	現代社会関連科目	情報科学	日常生活において情報あるいはコンピュータとの関わりは増大しており、社会が求める情報科学やコンピュータ及び情報ネットワーク等に関する基本的な知識を身に付けることは重要である。そのために本講義では、「情報とは何か」という問いに向き合いながら、コンピュータにおけるデータ表現、 コンピュータの仕組み等の基礎的な事項について理解する。 その後、 コンピュータ・ソフトウェア、 知識情報処理、 情報理論、 データマイニング、アルゴリズム等の情報科学の諸分野について考察することで、情報活用の応用力や創造力を養っていく。	
専門科目	現代社会関連科目	情報ネットワーク論	情報ネットワークとは複数のコンピューターが通信回線等を経由して互いに情報のやり取りを行う仕組みである。本講義では、情報化社会の基盤である情報ネットワークについて、存在意義や重要性を理解し、通信が確実かつ安全に行われるための構造や仕組みについて学ぶ。具体的には、ネットワークの基礎知識、インターネットの成り立ちと通信技術、ネットワークセキュリティについて学び、インターネットを活用した情報社会の将来像を考察し、自らの考えをプレゼンテーションできることを目標とする。	
専門科目	現代社会関連科目	地域産業論	現代社会において、地域における経済活動がどのようにその地域と関わっているのか、また地域社会における産業がどのように根付き、地域にどのような効果をもたらしているかについて、具体的事例をベースに学ぶ。また、地域における政策がどのように関わっているのかについても考察する。地域における企業活動とその役割、自治体との連携、労働力としての地域住民の雇用等について学ぶことで、地域と産業との関係について理解を図る。	
専門科目	現代社会関連科目	地域振興論	地域社会が抱える問題を発見し、それらの解決に向けた地域づくりの様々な手法について学ぶ。地域活性化のためには，地域の現状を把握し、その地域の特徴に合わせた振興を図っていくことが求められる。本講義では①地域とは何かを理解する、②各地域が抱える問題について理解する、③問題解決のための方策を多面的に検討し実践する、の3つのポイントから地域のすばらしさを再認識し、学生自身が地域の担い手となるための知識とスキルを修得する。	
専門科目	現代社会関連科目	流行科学論	流行について社会学の観点から学ぶ。流行現象を集合行動の理論から分析をし、その発生から消滅までのプロセスについて知ることで、社会の変化を読み取る。また、個人の消費行動との関連についても考察する。授業ではこれまでの流行品やトレンドを実際の事例として取り上げながら、その流行現象が起こった当時の社会情勢や産業システムとの関わりについても目を向けることでそれぞれの時代についての理解を図るとともに、流行がもたらした影響とトレンドの創り方についても検証する。	

専門科目	現代社会関連科目	サブカルチャー論	本講義では、芸術、文学、マンガ、音楽、映画、衣食住などあらゆるジャンルにおける日本の様々なサブカルチャーについて、そのサブカルチャーが成立した歴史的背景から現在に至る発展を様々な実例を基に分析し、サブカルチャーが社会に果たしてきた役割と意義を考察する。サブカルチャーの様式や特徴、社会との関わりなど文化の様態の変容を考察することで文化の多様性と可能性を理解し、錯綜する現代文化についてのアプローチ方法を検討する。	
専門科目	現代社会関連科目	ビジネスプランⅠ	ビジネスプラン（事業計画書）とは、新たなビジネスモデルを思いつき、それを実現させようとするときに作成する文書である。本講義ではビジネス活動における事業計画書について、これまで学んできた経営学の理論に沿って分析をし、経営に関する基本的知識をどのように実践で活かすかを学ぶ。ビジネスアイデアからビジネスプランへと練り、実際に企画として立ち上げるための戦略やマーケティング、実施する組織作り、財務や予算獲得までを実際の事業計画書を研究することで確認していく。経営学の知識の具体的な活用法を学ぶとともに収益事業をいかにして創造していくかを理解する。	
専門科目	現代社会関連科目	ビジネスプランⅡ	本授業では、「ビジネスプランⅠ」で学んだ様々なビジネス活動における事業計画書について、自ら作成することができるようになる能力を養う。具体的には様々な社会課題解決を実現するための方策を学生自身が検討し、その企画提案を実践するために多くの理解者を得られるよう事業計画書を作成しまとめる。作成する中で企画の実現性や過不足について理解をし、ブラッシュアップを行い効率化を図ることで企画そのものを洗練していく。事業計画書作成を通じて、将来社会に出た際に即戦力として実践できる観点と能力を身に付ける。	
専門科目	未来型社会関連科目	認知科学	認知科学とは、情報処理の観点から、人の知の動きから「心」を理解しようとする学問である。「人工知能」とともに成立した認知科学のこれまでの歴史を学び、「心」の働きに認知科学がどのようなアプローチで追求していくかを理解する。人の認知のメカニズムを知るとともに、心理学だけではなく文化人類学や言語学、情報科学、教育学といった領域との関わりについても理解を図る。認知科学のアプローチは社会創造学科の体系的な学びにおいても非常に役立つ科目となる。	
専門科目	未来型社会関連科目	論理的思考法	本講義では、課題解決のための論理的思考法及びフレームワークについて学ぶ。まず、講義前半ではロジカルシンキングの概要や基礎技術について理解し、ビジネスの各分野における代表的なフレームワークを学ぶ。後半では課題解決のための思考技術についても学び、自分の考えを説得力を持って伝えるためのコミュニケーション能力を身に付ける。授業を通じて、コミュニケーション能力だけではなく、社会人として必要不可欠な課題解決能力や意思決定力などを養うことを目標とする。	
専門科目	未来型社会関連科目	リスクコミュニケーション論	社会における様々なリスクについて学ぶとともに、リスクの種類とその把握方法を学び、リスクマネジメントについての理解を図る。また、危機の未然防止のための組織間コミュニケーションやメディアを介したコミュニケーションなど、社会における様々なリスクコミュニケーションについて、実際の危機における事例分析を通じて学んでいく。社会での実践力を身に付けるために、様々なリスクの予測ができるようになるとともに、実際のリスクに対する迅速な判断と適切な対応力が必要となる。そのためのベースとなる理論を学ぶ。	
専門科目	未来型社会関連科目	メディアコンテンツ論	技術革新が進むなか、メディアを活用したコンテンツが社会に多く溢れているが、コンテンツ消費の時代に、どのようなコミュニケーション戦略、マーケティング戦略をとればよいのか、時代の捉え方やマーケティング理論を解説する。さらに、アニメ、映画、スポーツ、TVなどの多様化するコンテンツビジネスの現状を説明し、各分野の専門領域を超えて、メディアにおける表現を軸に体系的に学ぶ。課題テーマに応じて分析やリサーチ、プレゼンテーションなどの演習を通じて、魅力的なメディアコンテンツ制作に必要となる知識とスキルを修得するとともに、コンテンツビジネスの新たなあり方を探る。	

専門科目	未来型社会関連科目	インストラクショナルデザイン	インストラクショナルデザインとは、学習を効果的・効率的・魅力的にするための手法を科学的に追求していく考え方である。学習内容の設計ではなく、学習の目標や目的と評価方法を定めてから、学習の仕組みを検討する手法であるため、近年は教育現場に限らず、様々な研修等でも採用されている。本講義ではインストラクショナルデザインの代表的なモデルであるADDIEモデル、TOTEモデル、ARCSモデルについて学ぶ。インストラクショナルデザインを理解することで、本学科で社会課題解決のための手法として、また社会表現を実践して解決策を可視化していく中でも役立つ手法を身に付ける。	
専門科目	未来型社会関連科目	参加型デザイン論	参加型デザインとは、商品や製品の消費者がデザインの過程に能動的に参加し、デザインされる製品がエンドユーザーのニーズに合っているか、使い易さはどうかなどを事前に確認するデザインにおけるアイデア創出の手法の一つである。デザインプロセスの一連の流れの中で、ユーザーの意見が集約され、デザインの方向性に合意が形成される必要があり、ユーザーとの直接のやりとりや観察の中からの気づきなど、ニーズの中から重要な課題を抽出し可視化することも大切である。本講義では、参加型デザインの理論と方法について学ぶとともに、インクルーシブデザインについても理解を図る。高齢者、障がい者、外国人、子どもなどのユーザー層も包含し、かつビジネスとして成り立つデザインを知ることで、人と人の間にある社会課題に対しての気づきとその解決策について学ぶ。	
専門科目	未来型社会関連科目	ライフデザイン論	本講義では、自分自身の人生設計を描くに当たり、就労意識や仕事観を醸成しつつ社会人として兼ね備えるべき基本的な知識・スキルを身に付ける。また、その上で自分らしくよりよい生き方を探求していくための方法について学ぶ。現代社会における問題をどのように解決すれば、自分自身だけではなく、社会の一人ひとりが生きがいを持って過ごしていけるのかを検討することで、多様性についての理解を深め社会課題の解決方法についての基本的なスタンスを確立することを目指す。	
専門科目	未来型社会関連科目	自己表現技術論	言語表現、音楽表現、造形表現、身体表現等、自分の考えを言葉と言葉以外の手段を用い、相手に伝える方法は様々であるが、その表現によって、相手に理解を促し、興味を引き、注意喚起をし、お互いが共感することは非常に難しい。本講義では、自分自身を理解した上で、相手の立場に立った物事の捉え方、情報収集の方法、適切な表現方法・ツール等について学ぶことでより効果的な「伝え方」について学び、社会人としてアサーティブな自己表現力を身に付ける。	
専門科目	未来型社会関連科目	コミュニケーションデザイン論	本講義では、一般的なコミュニケーションを取り上げるのではなく、社会表現を実践していく上で、発信者が意思と目的をもって伝えるべき内容を、誰に何のために伝えるのかを念頭に、「どのように」伝えればより効果的に伝わるかを学ぶ。多様な考え方について理解をするとともに多彩な表現方法を身に付けるために、社会における様々な表現物を事例に取り上げて学ぶ。具体的には、マスメディアにおける宣伝や広告などのデザインを通じたコミュニケーションの役割や機能を理解し、全体を通して適切なコミュニケーション方法についてデザインしていく方法を身に付ける。	
専門科目	未来型社会関連科目	社会実践演習Ⅰ	地域における社会課題を発見し、その解決方法を探求する力を身に付ける。大学のある摂津市の企業・社会福祉法人・自治体等からゲストスピーカーを招き、具体的な活動内容を聞くことで、それぞれが実践している地域における社会課題解決の取組について理解する。それらの実際の取組をヒントに、学生の目線から新たな課題と考えられる部分を見つけ出し、その原因を検討していく。授業実施方法としては、全般を通して学内におけるグループワークで個々の団体の分析をするとともに、学生として考え得る、その団体が解決可能な地域における課題をできるだけ多く検討していく。そして2年次後期開講の「社会実践演習Ⅱ」で、具体的な解決方法を探求していく。	共同
専門科目	未来型社会関連科目	社会実践演習Ⅱ	2年次前期開講の「社会実践演習Ⅰ」で、大学のある摂津市の企業・社会福祉法人・自治体等の様々な活動について理解をし、地域における課題についての検討を行った。本演習では、それらの地域が抱える課題について、それぞれの団体において実現可能なまちおこしの観点から解決策を見出していく。グループで取り上げるべき課題を決定し、教員のファシリテイトのもと、ディスカッションを通じて自分たちの考える新しい取り組み方針を作成し、最終的には課題の可視化から解決策についてのプレゼンテーション資料を完成させる。社会課題の解決力の育成とともに社会表現の方法についてその一端を理解する。	共同

専門科目	未来型社会関連科目	社会実践実習Ⅰ（フィールドワーク）	「社会実践演習Ⅰ・Ⅱ」で検討した摂津市の企業・社会福祉法人・自治体等に実際に赴き、それらの団体が実践している社会課題解決の取組の実際について見聞きをし、触れることで視野を広げる。そして、学生自らが検討してきた地域における改善点に対しての新しい取組の提案を行うことで地域の活性化にチャレンジする。グループ毎にそれぞれの企画や改善提案について、実際に各団体の担当者の指導を受けながら企画を完遂する。机上での検討と異なる実践におけるハードルや困難さを知るとともに、各団体の担当者との連携を通じて社会におけるビジネスルールを知る機会を得る。	共同
専門科目	未来型社会関連科目	社会実践実習Ⅱ（インターンシップ）	１年次の「JOCA大阪（公益社団法人青年海外協力協会）」でのボランティア活動や地域連携、２年次での摂津市の企業・社会福祉法人・自治体等との連携による企画提案等を経て積み上げた経験を活かし、本実習では最終的な社会実践の場としてのインターンシップに臨む。大学と提携している受入先における企業活動やCSR活動に関わることで、社会における各団体の役割を知るとともに、社会貢献や地域活動についても理解する。なお、インターンシップの実施にあたっては、正課外においてキャリアセンター課と連携をし、業界・職種研究、自己分析、マナー講座等の事前指導を行い、終了後は学科内におけるインターンシップ報告会を実施し、事後の振り返りとする。	共同
専門科目	社会表現関連科目	実践情報処理Ⅰ	実践情報処理では、ビジネス現場で必要とされる情報処理能力を身に付けることを目的として開講する。本講義では実践情報処理Ⅰとして、webの仕組みや webシステムを構築するための知識・技術を学び、WorldWideWebの仕組み・構造を理解するとともにwebの関連技術やwebを使った応用システム・サーバの構築について学ぶ。主に、webの基礎、HTMLとCSS、リレーショナルデータベース、クライアントサイドの技術、webのセキュリティ、セマンティックwebとリンクトデータなどを理解することで、webサイトを適切かつ効果的に活用できる実践的能力を身に付ける。	
専門科目	社会表現関連科目	実践情報処理Ⅱ	本演習では、基本的な情報処理技法の中から「クラウド関連」について、実際にGoogle WorkspaceやGoogle Cloud、AWSを使用して、クラウドサービスの具体的な操作方法について身に付ける。実践的なカリキュラムを通じてクラウドコンピューティングに関する知見を演習形式で学び、チームでのより効率的かつリアルタイムなコンテンツ作成、共同編集が可能となるような運用法を修得することで、クラウドサービス利用のメリットについて理解を図る。大学の授業における様々な有効的な活用法を知り、2年次以降の社会表現活動をチームで進める上での必修スキルを身に付ける。	
専門科目	社会表現関連科目	実践情報処理Ⅲ	情報処理システムを活用するにあたり、その中核技術としてのデータベースの理解と操作は必要不可欠である。本演習では、データベースの基本的な考え方と動作を理解し、その設計・構築・活用に関する基本的な技術を学ぶ。具体的な内容として、カード型リレーショナルデータベース「FileMaker」を使用し、データベースの仕組みと理論を修得し、学生一人ひとりが自らデータベースを設計し構築できるスキルを身に付ける。本科目を学ぶことでデータベースの目的を理解し、他者に説明できるようになるとともに、リレーショナルデータベースモデルを構造的に理解し、効率的な運用を行うことができるようになることを目指す。	
専門科目	社会表現関連科目	実践情報処理Ⅳ	AI、IoT、ビッグデータなどのデジタル技術の進歩により、様々な産業においてデジタル・トランスフォーメーション（DX）が進み、デジタル化が加速している。本演習では、国家のデジタル戦略について理解するとともに、DXを活用するビジネスについて学ぶ。そして、企業の具体的取組事例において、より良いサービスや業務を実現するためにどのような形でICTを活用しているかを実践で学ぶとともに、企業のデジタル経営に関わる課題やデジタル技術の発達がもたらす社会的影響（DX革新）とその要因などについても理解を深め、社会課題の解決にICTを活かす力を身に付ける。	
専門科目	社会表現関連科目	実践情報処理Ⅴ	本演習では、計測・制御システムのプログラミングについて学び、その仕組みを理解し、安全で効率的なプログラムの制作スキルを身に付け、動作の確認及び欠陥に対する原因究明及び不具合の解消等ができるようになることを目指す。また、情報通信ネットワークシステムについて、その構成と情報を利用するための仕組みについても学び、プログラミング技術を身に付けることで、現代社会において情報技術が果たしている役割とその仕組みについて理解を深める。	

専門科目	社会表現関連科目	写真・映像制作基礎	社会表現活動において「画像」を扱うに当たり「写真」と「映像」を撮影する上での基礎知識を修得する。具体的にはカメラの基本原理を理解し、レンズの特性、光の考え方やライティングの仕方、構図等について学び、目的に応じた様々なシーンにおける撮影方法を身に付ける。コンピュータによる画像編集や効果的な加工方法をスキルとして身に付ける以前に、撮影に関する理論を学び、実際に撮影することを通じてそれらを確認し、コンテンツの元となる素材の収集技術を自分自身のものとして吸収する。	
専門科目	社会表現関連科目	音声科学	社会表現活動において「音声」を扱うに当たり「音」の実態について、その性質の理解を図るともに感覚ではなく科学としての「音」の理論を学ぶことで、人間と音との関わりに対する科学的な理解を深める。また、実際に音声や音楽を作成し、コンピュータを活用し、その音声処理技術としての音声分析や合成について学ぶことで、効果的な音声や音楽の活用方法を理解し、実践的な音声分析と合成の目的、方法及び結果の評価方法を身に付ける。	
専門科目	社会表現関連科目	データベース概論	本講義では、データベースの仕組み、様々な役割、活用の事例を学ぶ。リレーショナルデータベースの基本概念とモデルについて理解するとともに、SQL言語の基本的な考え方を身に付ける。実際にデータベースソフトを活用したデータベースシステムの設計・構築、管理、運用の方法について、具体的な活用事例から理解を深める。さらに、ビッグデータ時代で用いられる新しいデータベース技術の概要についても学ぶ。また、同一学期に開講する「実践情報処理Ⅲ」での演習形式の授業におけるアウトプットを通じてデータベースを構築し、活用する実践的能力を身に付ける。	
専門科目	社会表現関連科目	データ分析Ⅰ（SPSS）	SPSSは、汎用機の時代から社会調査データを分析するためにもっともよく利用されてきたソフトウェアである。 コンピュータの初心者でも容易に扱うことができる簡便性を持っている。社会調査で必要とされる相関係数や回帰分析以外にも、分散分析、共分散分析、判別分析、因子分析、信頼性係数を扱うことができることからアンケートデータ、売上データ、購買データ、医療系データなどの分析に幅広く使用することができる。本講義ではSPSSの基本的な使い方を学ぶ。	
専門科目	社会表現関連科目	データ分析Ⅱ（NVivo）	NVivoは多種多様な質的データを一元管理し、様々な分析機能によりデータを読み解き、根拠に基づいた洞察・仮説を得ることを支援するQDA（質的データ分析）ソフトである。テキスト、画像、ビデオやSNSなど、身近にあふれている大量のデータから収集した知見に対し、「どんな言葉が使われているか」「何が論じられているか」等の可視化や、手作業では難しかったデータの俯瞰を可能にし、分析の着目点を効率よく発見できる点が特徴である。本講義ではNVivoの使い方を学び、実際の調査にて役立たせることを目指している。	
専門科目	社会表現関連科目	コンピュータ技術Ⅰ	「コンピュータ技術」の演習授業では、様々な社会課題の可視化を行ったり、またそれら社会課題の改善等を行うための企画提案や社会表現活動を実践するに当たっての必要なアプリケーションの技術修得を目指す。「コンピュータ技術Ⅰ」ではAdobe Lightroomを用いてデジタルカメラで撮影したRAW画像を現像し、写真を簡易に編集し、自身の伝えるべきイメージをよりダイレクトに表現する撮影・編集スキルを身に付ける。写真表現において、必要不可欠な技術となったコンピュータによるフォトレタッチについて、Adobe Photoshopを用いて写真加工技術についての基礎的な演習を行うことで操作技術を修得する。	共同
専門科目	社会表現関連科目	コンピュータ技術Ⅱ	本演習では、デジタルオーディオ編集ツールであるAdobe Audition を使って、コンピューターのマイクやスタジオの録音機器で録音したサウンドを加工し、様々なエフェクトツールによりダイナミックなサウンドを作り出す方法を身に付ける。また、動画における音声編集ではAdobe Premiere Proとリンクさせてより効果的な音声加工を実践する。音声編集の包括的なソフトの活用方法を身に付けることで、社会表現活動においてもストレートでインパクトのあるメッセージを伝えることができる。	共同
専門科目	社会表現関連科目	コンピュータ技術Ⅲ	本演習では、デジタルオーディオ編集ツールであるAdobe Audition を使って様々な音の表現方法を学び音楽制作の演習を行う。制作を通じ、デジタルでの音響処理や合成といったコンピュータでしか実現できない表現技術を修得する。またソフトウェアの使い方だけでなく、音楽制作の際に必要になる基礎知識も併せて学修する。コンピュータミュージックの可能性を最大限に活かし、自由な発想での音楽表現法を身に付ける。	共同

専門科目	社会表現関連科目	コンピュータ技術Ⅳ	本演習では、画像編集ソフトのAdobe Photoshopを使ってクリエイティブな表現を実践するためのグラフィック加工スキルを修得する。レイヤーの操作、画像の組み合わせ、レイヤーマスクの使用、及びクリエイティブなグラフィック、テキスト、エフェクトの追加方法といったPhotoshopの応用的なフォトレタッチ・デザイン・テクニックを身に付ける。また、課題作成等の実践を通じて、コンピュータによるグラフィック加工のプロセスについても理解を図る。	共同
専門科目	社会表現関連科目	コンピュータ技術Ⅴ	グラフィックデザインソフトのAdobe Illustrator について、その操作方法を基礎から実践的なレベルまで修得する。イラスト制作について、構図、背景、色彩についての理解を図り、ベクターデータ形式を活用するデジタルイラストを制作する。アプリケーションの概要について理解した上で、レイヤーやフィルターといった各ツールの使用方法やグラデーション作成などについて演習形式でスキルアップを図り、最終的には目的に応じたオリジナルイラスト作品やポスターを制作することが出来るまでの技術を身に付ける。	共同
専門科目	社会表現関連科目	コンピュータ技術Ⅵ	印刷及びデジタルメディアのための、レイアウトとページデザイン用ソフトであるAdobe InDesign の操作方法を修得する。本、デジタルマガジン、電子書籍、ポスターなどの制作とパブリッシュに必要な機能を操作し、インパクトのある印刷物を作成するスキルを身に付ける。また、チームでプロジェクト型の課題に取り組み、Publish Online を使用して、作成したドキュメントを公開するところまで取り組む。	共同
専門科目	社会表現関連科目	コンピュータ技術Ⅶ	実写映像、アニメーション、3DCGといった様々な映像表現について、編集の基礎知識を身に付けるとともに映像の概念、企画、撮影方法など制作全般についての理解を深めていく。動画編集ソフトのAdobe Premiere Proを使用して、実写映像などのカットをつなげて作品を制作するなど、デジタル映像編集の専門的知識･技能を身に付ける。最終的には、自身のオリジナル作品が制作できるようになることを目標とする。	共同
専門科目	社会表現関連科目	コンピュータ技術Ⅷ	コンピュータ技術Ⅶで身に付けるデジタル映像編集の専門的知識･技能をベースに、特にアニメーション制作について理解を深めていく。レイアウト、原画、動画、ペイント、撮影といったアニメーション制作におけるワークフローを学び、それぞれの工程の役割や作業内容について理解する。その上でAdobe Premiere Proを使用してアニメーション映像の作成や、実写映像にアニメーションのタイトルやロゴを追加してより効果的な映像の制作技術を学ぶ。	共同
専門科目	社会表現関連科目	社会表現演習Ⅰ	本演習では、1年次・2年次の演習授業で身に付けた社会表現科目のスキルを活かして、具体的な社会課題の可視化を図る。「実践情報処理」で修得したビジネス現場で必要とされる情報処理能力はもとより、「コンピュータ技術」で身に付けた各種アプリケーションの操作技術を活用し、それぞれのアプリケーションを複合的に駆使して、課題の可視化だけではなく課題の改善のためのプレゼンテーション画像や映像を作成する。より効果的な企画提案ができるようさらにスキルアップを目指す。	共同
専門科目	社会表現関連科目	社会表現演習Ⅱ	本演習では、学生自身が発見した社会課題についてその解決方法を検討していくにあたり、社会調査を実施し、その調査結果について量的（SPSS）及び質的（NVivo）に分析を行う。それらの分析結果をデータベースに反映し、自らが導き出した解決方法についての検証を実施した上で、最終的に課題改善の提案ができるようなプレゼンテーション資料の作成を行う。これまでに身に付けたデータ分析やアプリケーションの操作スキルを活かして、より的確でダイナミックな提案ができるような実践力を養う。	共同
専門科目	社会表現関連科目	社会表現演習Ⅲ	グループワークを通じて、webサイトを構築し、社会調査やデータ分析を基に実際にオンラインショップを開設する。具体的には2年次のプレ演習Ⅰ・Ⅱでwebサイト制作を行った企業の協力を得て、同社のe-コマースサイトを立ち上げる。立ち上げにかかる作業をグループメンバーで協力・分担をし、様々な課題をクリアして、ネットビジネスを実践するための知識やノウハウを蓄積し、ひとつの形としてのサイトを作り上げる。これまでの演習で身に付けたコンピュータの操作スキルを実践する力だけでなく、ネットショップ運営のための実務能力も身に付ける。	共同

専門科目	社会表現関連科目	社会表現演習Ⅳ	社会表現演習Ⅲで立ち上げた協力企業のe-コマースサイトの運営を通じて入手する様々なデータを活用して、サイトの維持・更新をしていく実践力を身に付ける。グループ内で分担をし、SPSSやNVivoを活用したデータ分析を行い、その評価結果を全体で検証することで、サイトの維持・改善策を検討する。一連の作業を通じて、実際のビジネス現場における課題発見・解決能力を養うとともに、グループワークを行うことでビジネス現場におけるチームワークやリーダーシップの理解を促す。	共同
専門科目	社会表現関連科目	社会表現総合演習Ⅰ	3年次の社会創造学演習Ⅰで、他学科のゼミとのコラボレーションによる課題発見から、グループワークを通じての課題解決方法を提案した流れについて、それらの活動を一つの制作物として作り上げる。1年間かけて実践してきた内容を振り返りつつ、それらを作品として仕上げ、学内での発表を行う。発表で多くの人の目に触れることにより、作品としての評価や改善点を得て、それらの対応を基にコンピュータの操作スキルを磨き、より効果的な表現方法を身に付ける。	共同
専門科目	社会表現関連科目	社会表現総合演習Ⅱ	本演習は社会創造学演習Ⅱ及び卒業研究発表に向けた制作課程の演習科目である。学生自身が4年次ゼミで取り組む社会課題の解決について、その課題や提案内容の可視化を図るために、これまでに身に付けた様々な表現方法を駆使してより適切で効果的な制作活動を行う。後期に開講する「卒業研究発表」の準備段階としての作業であり、年度末の発表を見据えて、企画作成から構想設計を経て実際の制作活動へと段階的に取り組んでいく。	共同
専門科目	ゼミ	社会創造学演習Ⅰ	3年次ゼミとして1年間の授業展開を実施する。本演習では、ゼミ単位あるいはゼミを複数のグループに分けて、他の学科の3年次ゼミとのコラボレーションによる社会課題の発見・解決を図ることでソーシャルアントレプレナーシップを養う。具体的には他学科における対人援助の専門職として対峙する社会課題について他学科ゼミへの聞き取り調査を行い、その内容を写真・映像・イラスト等に落とし込み、課題の可視化を行うことでより詳細に理解し、ゼミ間、学生間の議論を通して課題解決の方法を探求する。最終的には解決策を制作物として完成させ、社会創造学科主催で全学に開放して実施する「課題解決提案コンテスト」に出展する。	
専門科目	ゼミ	社会創造学演習Ⅱ	4年次ゼミとしての社会創造学演習Ⅱでは、これまでの学びの集大成として学生個人あるいは学生グループそれぞれが見出した社会課題について探求しその解決策を提案する。社会課題の発見、データ分析、解決方法の検討といったそれぞれの段階における調査・作業・制作にじっくり取り組むことで、ソーシャルアントレプレナーシップを養成する。最終的には「卒業研究発表」で提案の可視化、公表を行い、問題の解決だけではなく事業や組織の創造までをも視野に入れた研究活動を行う。	
専門科目	ゼミ	卒業研究発表	社会創造学演習Ⅱでは、4年間の学びの集大成として学生個人あるいは学生グループそれぞれが見出した社会課題について探求しその解決策を提案するが、その解決策について写真・映像・イラスト等を用いて可視化を図り、発表・提言を行うのが本演習である。ゼミでの1年間の研究を後期に制作物として完成し、学内では教職員に向けたプレゼンテーションを実施し、学外に向けてはwebサイトやSNSを通じての発表を行い、広く発信する。	共同